

(2) 調査結果

① 対策工必要箇所および対策工要検討箇所の抽出

地表踏査ならびにボーリング調査等を実施した24箇所の斜面について①斜面勾配、②風化の度合い、③地下水位、④聞き取り調査における崩壊の経緯の4点を総合的に検討した結果、何らかの対策工が必要な箇所として5箇所、監視の上異常があれば対策工を検討する必要があるものとして7箇所が抽出された。残り12箇所は、今後とも監視は必要で現状では安定性を損なう大きな要因は見られないとする結果となった。

表-1に対策工必要箇所の一覧を、また表-2に対策工要検討箇所の一覧を示す。

表-1 対策工必要箇所の一覧

	No.1	No.7	No.8	No.11	No.13
位置及び種別	ダムサイト 上流 2.0km 右岸 周辺斜面地	ダムサイト 上流 5.5km 右岸 車作斜面地	ダムサイト 上流 5.2km 右岸 車作斜面地	ダムサイト 上流 5.7km 右岸 車作斜面地	ダムサイト 上流 5.5km 右岸 車作斜面地
安定性の評価	現状ではほぼ安定していると考えられるが、貯水により山体が不安定化する可能性が高い。	貯水による影響はないが、現状において厚い風化層があるなど山体が不安定化する可能性が高い。	貯水による影響はないが、現状において締まりの悪い崖錐堆積物が山体を覆っており不安定化する可能性が高い。	貯水による影響はないが、現状において斜面上に地割れが見られ、山体が不安定化する可能性が高い。	貯水による影響はないが、現状において急斜面部に分布する風化帯が崩壊するなど不安定化する可能性が高い。

表-2 対策工要検討箇所の一覧

	No.3	No.5	No.6	No.9	No.10	No.23	No.24
位置及び種別	ダムサイト 上流 3.5km右岸 周辺斜面地	ダムサイト 上流 4.7km右岸 車作斜面地	ダムサイト 上流 5.0km右岸 車作斜面地	ダムサイト 上流 5.5km右岸 車作斜面地	ダムサイト 上流 5.6km右岸 車作斜面地	ダムサイト 上流 5.5km右岸 車作斜面地	ダムサイト 上流 5.7km右岸 車作斜面地
安定性の評価	現状ではほぼ安定していると考えられるが、風化帯が厚く、貯水により山体が不安定化する可能性がある。	大阪層群は厚く過去に崩壊の経緯があるため、現状において不安定化する可能性がある。貯水による影響も考えられる。	現状ではほぼ安定していると考えられるが、締まりの悪い段丘堆積層があり、貯水により山体が不安定化する可能性がある。	貯水による影響はないが、現状において斜面急でまた風化帯が厚いため、山体が不安定化する可能性がある。	貯水による影響はないが、現状において斜面が急でまた過去に崩壊の経緯があり、山体が不安定化する可能性がある。	貯水による影響はないが、現状において急崖ないし急斜面部に分布する風化帯と崖錐堆積物が崩壊するなど不安定化する可能性がある。	貯水による影響はないが、現状において急崖ないし急斜面部に分布する風化帯と崖錐堆積物が崩壊するなど不安定化する可能性がある。民家に隣接する法面の枠は現状で既に変状しており、今後さらに変状が進めば斜面の崩壊に至る可能性がある。